

決算概況

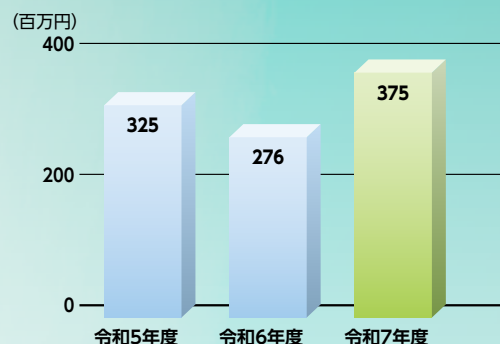
当期純利益



当期純利益は、経常利益に特別損益や法人税等および法人税等調整額を加減した最終の利益です。

令和7年度は、市場金利の上昇による預け金利息や有価証券利息配当金等が増加しましたが、一方で保有債券の含み損圧縮のため国債等債券売却損や貸倒引当金繰入、固定資産の減損損失などにより、当期純損失9億5千万円となりました。

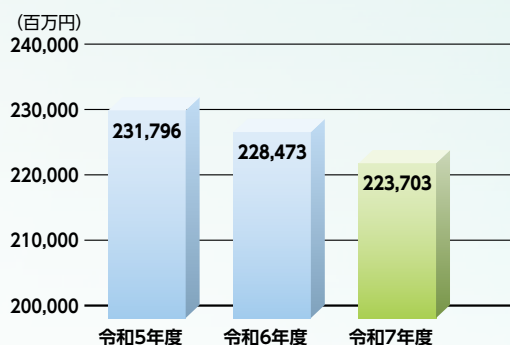
コア業務純益



コア業務純益は、本業での収益力を表す指標です。

令和7年度は、市場金利の上昇等により資金運用損益は、預金利息が大幅な増加となったものの、預け金、有価証券利息配当金や貸出金利息の増加によりコア業務純益は3億7千5百万円を計上することができました。

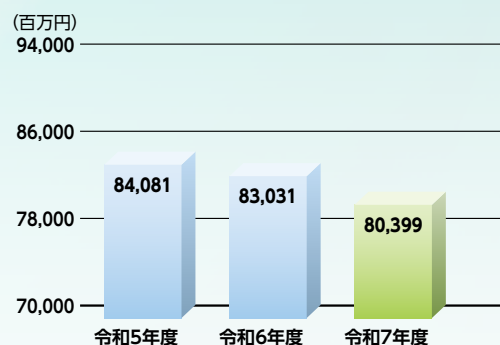
預金積金残高



預金残高は、相続や他商品への資金移動や預金獲得競争により減少しました。

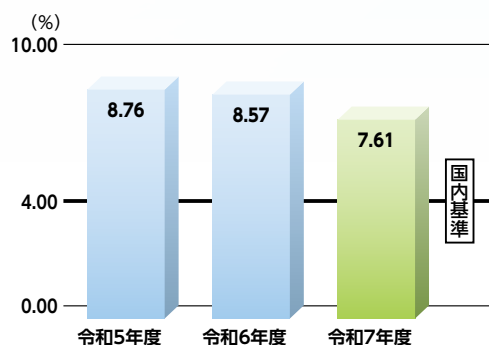
令和7年度は前期より47億7千万円減少し、2,237億3百万円となりました。

貸出金残高



貸出金残高は、事業性融資において、設備資金は増加したものの、運転資金は減少しました。また、住宅資金や個人向け融資も減少したことから、前期末比26億3千2百万円減少し、803億9千9百万円となりました。

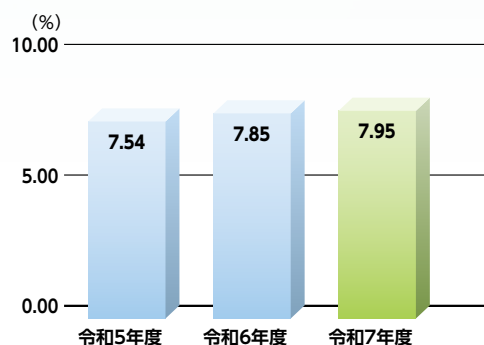
自己資本比率



自己資本比率は、金融機関の健全性を表す指標で、損失が発生する可能性のある資産に対する自己資本の割合のことです。国内のみで営業する金融機関の場合、4%以上の比率を維持することが法律で定められています。

令和7年度の自己資本比率は7.61%に低下しましたが、国内基準を大きく超える水準であり、依然として高い健全性を確保しております。

不良債権比率



令和7年度の金融再生法に基づく開示債権の不良債権比率は7.95%で、前期より0.1ポイント上昇しました。なお、不良債権のうち83.53%は担保・保証等や貸倒引当金によって保全されております。

また、不良債権額から保全額を差し引いた実質的な不良債権は貸出債権全体の1.31%であり、十分な保全が図れております。

はじめに

地域を応援する
取り組みコンプライアンス等
への取り組み各種サービス
のご案内ガバナンス
の充実状況

資料編